

優秀賞

カカオガールズとして、私にできること

茨城県立水戸農業高等学校 2年
富永 直

あなたはSDGsという言葉をご存知ですか？SDGsとは、「誰ひとり残さない」をモットーに、国連が採択した持続可能な開発のためのグローバル目標のことです。私がなぜこのことに興味を持ったかという、一年生の時、道徳の授業で先生が青年海外協力隊としてフィリピンへ行った体験談をお話して下さったのがきっかけです。そこで、フィリピンの農家さんの現状として、貧困や飢餓など、今現在でも社会的地位が低いということを知りました。そこで、私が所属している水戸農業高校食品科学部の仲間と共に、カカオガールズというチームを立ち上げました。

まずフィリピンの農家さんとの交流を始めました。私は、農家さんの中でもチョコレート原材料であるカカオ農家さんに目を付けました。なぜカカオ農家さんに目を付けたかという、なんと世界中のカカオ農家の多くがその加工品であるチョコレートを食べたことがないからです。つまり、最も身近な生産者である農家さんは、自らが作ったカカオが世界でどのようにカタチを変えているのかを知りません。私はそのことに強い衝撃を覚え、仲間と共に立ち上がりました。

最初に、カカオを使った商品開発を行いました。フィリピンには、独自のカカオ豆消費文化として、カカオ豆を粉砕しペーストにした後、再度丸く成形した“タブレット”というものがあります。つまり、カカオ100%のチョコレートです。そのタブレットを使って、チョコタルトを作りました。名付けて「大人のカカオタルト」です。その売り上げの一部で購入した剪定ばさみと食品製造の際に使用する実習服に加え、クラスメイトに味の感想や農家さんへの想いを書いてもらった手紙を添えて先生を通してフィリピンの農家さんに届けました。

その返事として、「タブレットを使ってくれてありがとう。いつかフィリピンに遊びに来てね。」と言ってもらえました。国境を超えたつながりができたと感じた瞬間でした。

さらに、フィリピン由来のカカオ苗を学校で栽培していた私達は、なかなか手に入れることのできない貴重なカカオの葉を、捨ててしまうのはもったいないのではないかと考えました。葉の色や形、丈夫さ、長さなどの条件が整った綺麗なカカオの葉は、タルトの下などに敷くと、とても見栄えすると共に、高級感も生まれます。主役のアクセントになるカカオの葉に、商品価値があるのではないかと考え、地域の花き農家を通じて、まずはサンプルとして花き仲卸業者に一枚十円で販売をすることにしました。カカオの葉は、現地ではゴミになってしまうそうですが、販売場所を変えたり、対象者を設定したりしてPRすることで、商品価値を見出すことができました。カカオの葉の新たな可能性を発掘しただけでなく資源の有効活用という地球にも環境にも優しい取り組みに一歩近づきました。

これらの活動を通じて、私自身が身を持って感じたことは、“つくるを越えた、つながる”大切さです。タブレットを使った商品の開発、フィリピンのカカオ農家さんとのやりとりや寄付を通じて、国境を超えた繋がりを持つことができ、農家さんのやる気を促すだけでなく、それと同時に私達も励まされました。

最後に、私達は日本とフィリピンの農家さんを繋ぐ活動を行っています。その中で見えてきた固い絆や信頼関係、彼らの頑張りにこの活動を続ける価値を感じ、私達も頑張ろうと思えました。ただどちらかが助けるという関係ではなく、キーワードは、“つながる”。SDGs の考えに基づき、フィリピンの農家さんとの助け合いは今後も続きます。